

2016 年度文化庁委託事業報告書

福島県被災地方言の談話資料収集と web 発信

2017 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室



《 目 次 》

| | | |
|----------------|-------|---|
| ■事業概要 | | 1 |
| ■福島県内被災地方言談話資料 | | 3 |
| 田村市都路町 | | |
| 双葉郡川内村 | | |

事業概要

1.事業の目的

本事業は以下の2点を目的とする。

- (1)福島県浜通りおよび北部阿武隈高地の方言談話資料の収集とその発信
- (2)長期的に被災地方言の保存・継承活動に取り組むための方言研究者ネットワークの構築

周知の通り、福島県太平洋沿岸の浜通り地方は東日本大震災において広く津波の被害を受けるとともに、東京電力の原子力発電所事故により、多くの自治体の住民が今もなお不便な避難生活を強いられている。事故の被害は沿岸部にとどまらず、飯舘村、川俣町山木屋地区、葛尾村、田村市都路町、川内村といった阿武隈高地北部の各地へも及んでいる。

こうした状況下、福島大学では2012年から14年にかけて文化庁の委託を受け、被災地域の方言についての調査と継承に向けての基礎作業を行なった。既存の方言調査データを整理するとともに、被災地各地の方言音声データを収集し、それらの情報を公開するwebページを作成した(平成25年度被災地における方言の活性化支援事業「福島県内被災地方言情報のweb発信」)。しかしながら広域である県内被災地すべての方言について十分なデータを採録するには至っておらず、webにて公開できる方言情報も地域に限られてしまっている。なお多くの地域で調査の継続が必要である。

原発事故にともなう多くの避難指示地域では空間放射線量も低減し、各地で指示の解除が進みつつある。しかしながら一方で、諸事情により、特に若い世代を中心に住民の帰還が捗っていないという現実も存在する。人口減少の問題を抱えるこれら自治体においては、住民の帰還に向けての施策を講ずるのは当然として、さらに地域活性化のために交流人口の拡大を希望する声も多く聞かれる。たとえば福島大学では、文部科学省COC事業(地(知)の拠点整備事業)として「ふくしま未来学」を組織し、被災地において多くの地域実践授業を開講している。教員と学生が被災地を訪れ、故郷に戻られた方々と交流することが、被災地域の活性化につながるものとして大いに歓迎されている。

このように住民の帰還が始まった多くの元避難指示地域においては、学生らとともに研究者が地域に入り、たとえ数日でもそこに滞在して地域の方々と交流をすること、すなわち方言調査を企画し実施すること自体が、地域の交流人口の増加につながり、その活性化に寄与するものとなりうるのである。

なお被災地である福島県浜通り地方(いわき市)に立地するいわき明星大学は、長く方言研究者が不在となっていたが、今年度より新たに研究者が赴任し、福島大学と共同で本事業に取り組む体制が整った。福島大学の立地する福島市から、被災地の存する浜通りや阿武隈高地までは、同県内といえども場所によっては移動に2時間以上かかることも多く、調査の妨げとなっていた。本事業を機に、被災地に立地するいわき明星大および県内外の福島方言研究者と緊密な連携を図り、継続的に県内被災地方言の保存・継承活動に携わっていくためのネットワークを構築することも重要な目的のひとつと考えている。

2.事業の実施体制

本事業の実施体制は以下の通りである。

責任者

半沢康(福島大学人間発達文化学類・教授)

- ・全体の統括。方言談話資料収集調査のマネジメント(阿武隈高地および浜通り北部担当)。

分担者

玉懸元(いわき明星大学教養学部・准教授)

- ・方言談話資料収集調査のマネジメント(浜通り南部担当)。

白岩広行(上越教育大学教育学研究科・講師)

- ・談話収集調査。

本多真史(福島大学プロジェクト客員准教授)

- ・談話収集調査。情報発信のための web ページ管理。

協力者

小林初夫(浪江町立幾世橋小学校および福島市立岡山小学校・教諭[兼任])

- ・県外避難者を対象とした談話収集調査。

3.業務実施報告

(1)被災地方言の談話資料収集

引き続き県内被災地方言の自然談話資料収集を実施した。被災地方言継承の観点から、各地の方言の全体像(音韻、文法、語彙、アクセント、イントネーション)を精緻に把握することが不可欠である。これまでのデータに加え、さらなる談話資料の蓄積を図った。

今年度は特に、避難指示が解除されて住民の帰還が始まった地域に赴き、先駆けて地域に戻られた高年齢の方々にお話を伺った。震災時の話のみならず、小さいころの思い出や地域の行事、文化などさまざまなお話を聞かせていただいた。お話を伺うに際し、被災された方々の傾聴支援にもつながるよう心を砕いた。

(2)方言研究者ネットワークの構築

福島大学の「プロジェクト研究所」制度を活用して福島大学内に「福島県方言研究センター」を組織した。分担者ほか学内外の言語研究者に研究所の研究員(プロジェクト研究員)を委嘱し、被災地方言の調査研究を継続的に実施していくための体制整備を行なった。

福島県内被災地方言談話資料

以下には本事業で収集した福島県内被災地方言の談話資料を掲載する。

すでに他の地点での調査も実施済みであるが、紙幅、データ整理の都合もあり掲載を2地点に限った。

いずれの談話資料もおおよそ1時間～2時間程度、東日本大震災の体験や子供のころの地域の思い出などについて、複数のインフォーマントに自由に会話をさせていただき、その様子を録音させていただいたものである。各地の貴重な方言資料であると同時に「震災の記録」としても重要な意義を持つ。本書掲載はこれも紙幅の関係でその一部(5分程度)にとどまるが、残りの部分についても他地点の資料とともに適宜整理を進め、準備が整い次第、順次「事業概要」にて紹介した「福島県内被災地の方言情報を発信するwebページ」に掲載する予定である。

文字化作業は福島県内のテープ起こし業者へ業務を発注した。詳細な方言音声の書き分け等を行なっておらず、以下の資料はあくまでも「速報版」であることをお断りしておく。

文字化の方法等については、東北大学方言研究センター編2013『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』の基準にほぼ従っている。ただし「聞き取り不能」の箇所は理由によらず、すべてxxxのように表記した。またあいづちや笑い声などの非言語音は表記していない。

下段の共通語訳は、福島大学人文学類2016年度開講「日本語学演習II」受講者が分担して草稿を作成し、演習の授業の中で責任者とともに相互に確認を行なったものである。受講者はいずれも談話収集調査に参加している。草稿作成者名は各談話資料の末尾に示した。

福島県被災地方言自由談話

— 田村市都路町 —

[収録場所] 田村市都路地区公民館

[話者] A(高年層男性), B(高年層男性), C(高年層男性), D(高年層男性)

[調査者] 武田拓, 佐藤優衣, 赤間千夏, 大井沙耶香

001B:ソーダヨナ オンナジ ミヤコジダッテ ニジュッキロノ ヒトド
そうだよな 同じ 都路だっテ [原発から]20キロの 人と

サンジュッキロノ ヒトドワハー ホントニ サガ ツイッチャッタガラ
30キロの 人とは 本当に 差が ついてしまったから

キモチマデ ミンナ オガシグ ナッチャッテンダモンネ
気持ちまで みんな おかしく なってしまっているんだもんね

002A:ウン

うん

003B:ドーショーモ ナイコド ナンダゲドモネ

どうしようも ないこと なんだけどもね

004A:タスケアウノワ ニンゲンダカラ ヤッパリ ヒツヨーカモ シンナイ

助け合うのは 人間だから やっぱり 必要かも しれない

ケドモ タダ モラウッテ ユーノワ ヨグナイネ ゼツタイ アノ
けども ただ もらうって いうのは よくないね 絶対 あの

ニンゲンオ カエテシマウッテ カンジダネ モー トニカグ モラウ
人間を 変えてしまうって 感じだね もう とにかく もらう

モラウ ソレモ ヒツヨーダロー ケレドモ アンマリニモ シスギテワ
もらう それも 必要だろう けれども あんまりにも もらいすぎでは

ジリツノ アレガ ナクナッテ シマウノカナッテ ワタシモ カセツニ
自立の あれが なくなって しまうのかなって 私も 仮設[住宅]に

サンネンカン イサセテ モラッタケド ソー オモイマシタヨ アト
3年間 いさせて もらったけど そう 思いましたよ あと

カリアゲニ イタカタモ モチロン イマスケドネ
借り上げに いた方も もちろん いますけどね

一:みなさん、避難をやっぱりされたんですか。

005A:シロツテ イワレタガラ シタネ イギナリ シマシタ
しろって 言われたから したね すぐに しました

006B:ヒナン シロツテ イワレダガラ シタンダケド
避難 しろって 言われたから したんだけど

007C:ニゲロツナンテ イワツチ
逃げろなんて 言われて

008B:ウジナンカワ バーチャント トショリバーチャンガ イダガラ
家なんかは おばあさんと ひいおばあさんが いたから

ヒナンジョニワ ハイレナイシ オカユタベテタ ジョータイダッタガラナイ
避難所には 入れないし [震災前から]おかゆ食べていた 状態だったからな

ヒナンジョニワ ハイラレナイ カセツモ チョット ムリダト オモツタガラ
避難所には 入れない 仮設も ちょっと 無理だと 思ったから

マー アパートオ カリテ イタケド マー ゴゼンチューワ センタク シタリネ
まあ アパートを 借りて いたけど まあ 午前中は 洗濯 したりね

ソージ シタリシテ ナントカ キオ マギラシテ イルンダケド ゴゴン ナット
掃除 したりして 何とか 気を 紛らわして いるんだけど 午後に になると

モーハ ナンニモ ヤルコト ナクテ ジットシテ イラレナクテ ソノヘン
もう 何にも やること なくて じっとして いられなくて その辺

ドライブ シタリマッター シテ アルッテタケド ヤッパシ
ドライブ したりなど して 歩いていたけど やっぱり

ウチノ ハハオヤワ ハー トシガ トシナモンダガラ ソーユー
家の 母親は もう 歳が 歳なもんだから そういう

アパートセイカツ ムリダツタンダンネ ダガラ ハントシクライガ
アパート生活 無理だったんだよね だから 半年くらいか

ヒナンシテ イタノハ モーイーヤッテハ ウジニ カエッテ
避難して いたの もういいやって 家に 帰って

バーチャント フタリ カエッテ イッタケド マー ソーヤッテ ウチニ
おばあさんと 二人 帰って いったけど まあ そうやって 家に

カエッテクルト コンドワ ウチニ イルト ケーサツトカ ジエータイノ ヒトガ
帰ってくると 今度は 家に いると 警察とか 自衛隊の 人が

パトロールシテ アルクンダヨネ
パトロールして まわるんだよね

009A:ワルイゴド シテル ミタイダヨネ
悪いこと している みたいだよ

010B:スガタ ウン スガタガ ミールト ダイジョブデスカーッテ
姿 うん 姿が 見えると 大丈夫ですかーって

マワッテ コラレンダヨネ ダガラ ジブンノ ウチデナイ ジブンガ
回って 来るんだよね だから 自分の 家でね 自分が

イルノニ ナンカ ワルイヨーナ カンジシテ
いるのに なんか 悪いような 感じて

011A:ソーソーソー ソレワアル
そうそう それはある

012B:カグレテイル ヨーナ カンジデ スゴシテ イダゲド
隠れている ような 感じで 過ごして いたけど

013A:アルヨネ

あるよね

014B:ウン ホントニ タイヘンダッタ アノドギワ マワリワ ヒトワ イナイシ

うん 本当に 大変だった あのとときは 周りは 人は いないし

ホントニ アンナ オモイ スルトワ オモイモ シナカッタ

本当に あんな 思い するとは 思いも しなかった

015A:サギ ウマレダ ヒトモ ヒナン シテタンダベ

先に 生まれた 人も 避難 していたんでしょう

016D:ダレ

誰

017A:サギ ウマレタ カタタチ

先 生まれた 方たち

018D:イヤ モチロンダワイ

いや もちろんだよ

019A:ナジョタッタイ

どんなだった

020D:ウン イヤ ジンセーケーケンノタメニ イガッタンデネー

うん いや 人生経験のために よかったんじゃない

021A:アラ サスガ サスガ ウマレタ サキ ウマレタ ヒトタチ カンガエガ チガウ

あら さすが さすが 生まれた 先 生まれた 人たち 考えが 違う

022C:サッキヤ ネーガラ

先が ないから

023A:サッキヤ

先が

024C:サキア ネーガラナー

先が ないからな一

025A:サッキャ ネーガラ

先が ないから

026C:ウン アド ナンネンカシカ イギネーダガラ カマネベハ

うん あと 何年かしか 生きないんだから もう構わないだろう

027A:イーヤンベニ シヌノ

ちょうどよく 死ぬの

028C:イーヤンベニ アドアド カンゲーダラ トデモ

ちょうどよく あとあと[のこと] 考えたら とても

029A:ソーダネ

そうだね

030C:ウン

うん

(大友一瞬, 大橋ひとみ)

福島県被災地方言自由談話

— 田村市都路町 —

[収録場所] 田村市都路地区公民館

[話者] A(高年層男性), B(高年層男性)

[調査者] 白岩広行, 渡邊愛, 大友一瞬, 大橋ひとみ

001A: ソーダネ ダイタイ インダガラ アノ シューセンノドギ チョード
そうだね だいたい だから あの 終戦のとき ちょうど

オレ アノ コーリヤマ バグゲギサレダ シニ カエッテキタッタノ
私 あの 郡山[が] 爆撃された 日に 帰ってきたの

ムゴーサ モー ゲシュグシッタガラ デ カエッテキタラバ
向こうに もう 下宿していたから で 帰ってきたら

アノトージ グンノ カンプオ ボシューシッタダヨ カンプコーホセーツツーノ
あの当時 軍の 幹部を 募集していたんだよ 幹部候補生というの[が]

アッタノヨ コーコー イマダラ コーコーダナ アノジダイワ
あったのよ 高校 今なら 高校だな あの時代は

ジューハッサイイジョー モー シガンデキタンダヨ オレモ ドーセ
18歳以上は もう 志願できたんだよ 俺も どうせ

トラレンダラバ ニトーヘーデハ シャネド オモッタガラ ンジャー
[兵隊に]取られるのなら 二等兵では 仕方ないと 思ったから じゃあ

カンプツツタッテ ソーダッテ ウエマデ ノボランニガラ
幹部といたって 上まで 昇れないから

トクベズカンプコーホセーツツエノガアッタ ソノトージ グンジンガ
特別幹部候補生というのがあった その当時 軍人が

タリナカッタガラ イッパズデ カンタンニ ウガッチマッタノ
足りなかったから 一発で 簡単に 受かってしまったの

一:幹部に？

002A:ウン ホンデ ショーワニジューネンノ ハジガズニジューハジニジニ
うん そして 昭和 20 年の 8 月 28 日に

ヒロシマ ニュータイダッタ ホンデ アノトージ イシーツテユー イマダラ
広島 入隊だった そして あの当時 石井という 今なら

ジモドガラ センキョデ トーセンシタシトガ チジニ ナンデショー トゴロガ
地元から 選挙で 当選した人が 知事に なるでしょう ところが

モドワ クニノホーガラ
以前は 国のほうから

一:国から送らってきた。

003A:カンセンチジツツーノ ソンドギ イシーサンテユー シトダッタナ ソノシトニ
官選知事というの そのとき 石井さんという 人だったな その人に

ヒロシマユギノ キップマデ ワダサッチ
広島行きの 切符まで 渡されて

一:知事から？

004A:ウン ホンデ オレワ ウジサ イッタン カエツテキタノ ソンナ
うん それで 私は 家に いったん 帰ってきたの そんな

ジョータイナ モンダガラ ホンデ オヤダジト シテイダラ チョード
状態な ものだから そして 親たちと 過ごしていたら ちょうど

コーリヤマ バグゲギサレル ヨイノシダガラ ホーシタツケ
郡山[が] 爆撃される 宵の日だから そうしたら

コゴンドゴ ビーニジュウクガ トンデキタンダ シューダンシテ
この所[を] B29 が 飛んできたんだ 集団になって

ミヤコジアダリモ シンダシト イルンダヨ
都路あたりも 死んだ人[が]いるんだよ

一:落どさっちゃんですか？

005A:ウン バラバラ バラバラ ヤラッチ ジゲンジョアダリ ソノヘンネ
うん バラバラ バラバラと やられて 実験場あたり その辺ね

ノーカノ シトガ ヤラッチャ
農家の 人が やられた

一:やらっちゃんですか？

006A:ウン ホガノイエサ ジューダイグライ ソロツテ ガーット キタンダガラ
うん 他の家に 10台くらい 揃って ガーッと 来たんだから

ホンデ バラバラ バラバラ バラバラ ブダッチャワゲダ ダガラ
そして バラバラ バラバラ バラバラと 撃たれたわけだ だから

ナンニンカ シンデンダヨ ソーユウ ジダイダッタゲド ソシテ アンドギ
何人か 死んでいるんだよ そういう 時代だったけど そして あのとき

バグゲキワ コーリヤマドガ アーユードゴ ヤッタ コーリヤマノ エギマエノ
爆撃は 郡山とか ああいうところ やった 郡山の 駅前の

イマ アノ ホシビョーインニ ナッテットゴガ アズグニ
今 あの 星病院に なっているところが あそこに

グンジコージョーガ アッタンダヨ
軍事工場が あったんだよ

一:昔ね。

007A:ウン ホンデ アズグ カガグノ クスリモ ツクッテタンダヨネ
うん そして あそこ 化学の 薬も 作っていたんだよね

ダガラ アズグワ メチャクチャニ ヤラッチャ オレ アンドギネ

だから あそこは めちゃくちゃに やられた 私[は] あのときね

コーリヤマニ イッタドギニ オドロイダゴドニワ エギマエガ モノスゴグハー
郡山に 行ったときに 驚いたことには 駅前が もうものすごく

バグゲキサレデ アンドギ ハジメデ ワダシモ イヤー センソージャ
爆撃されて あのとき はじめて 私も いや 戦争とは

コーユーモンカナード オモッテ カンガエダッタナ イヤー ミズワ
こういうものかなと 思って 考えてしまったな いや 水は

ソッチモ コッチモ フギダシテッペヨー アレxxxxxxxx ホンデ
そちらも こちらも 吹き出しているし あれxxxxxxxx それで

オレワ アイズガラ カエッテキタドギニ バンエズトーセンサ ノッタラバ
私は 会津から 帰ってきたときに 磐越東線に 乗ったら

テギキガ キタガラ アノー シナンシナサイテ イワッチャ ドゴサ
敵機が 来たから あの 避難しなさいと 言われた どこに

シンダツツッタラ エギマエニ ボークーゴーガ アリマスカラ ソゴサ ミンナ
[避難]するんだと言ったら 駅前に 防空壕が ありますから そこへ みんな

イドーシテ クダサイッテ ソレオ シドーシッタノ オギャクサマオ
移動して くださいと それを 指導していたの お客様を

ユードー シッタノワ ナント ジョガクセーダヨ オレ ソンドギ ツグズグ
誘導 していたのは なんと 女学生だよ 私[は] そのとき つくづく

オモッタヨ アノ アノコロ ボークーズキンテナ コー ワダイレノ
思ったよ あの あのころ 防空頭巾とってな こう 綿入れの

アレ カブッテ ソレ ミンナ オラド ドーキューセーノ ジョガクセー
あれ[を] 被って それ みんな 私と 同級生の 女学生[が]

オギャクサマ ユードー シテダンダ アンドギ カンゲーダナ オレラド
お客様[を] 誘導 していたんだ あのとき 考えたな 私らと

オンナジ トシデナ コンナニ コーリヤマアダリノ ジョガクセーノ シトワ
同じ 歳でな こんなに 郡山あたりの 女学生の 人は

タイヘンナンダナド オモッテ カンガエダッタ デ エギマエサ イッタラ
大変なんだなと 思って 考えたんだ それで 駅前に 行ったら

イヤー モー ミズノ フギダシテットゴガラ バグゲギシラッチャ アドダガラ
いや もう 水が 吹き出している所から 爆撃された 後だから

オガシグナッタ キジゲーミデニ ナッタシトモ イダツケ サワイデ
おかしくなった 気違いみたいに なった人も いたなあ 騒いで

ソシタラ アノ ボークーゴーサ ハイッタワ イーガ
そうしたら あの 防空壕へ 入ったのは いいが

キモジワリクテ オレ ナガマデ ヘーンネデ コーヤッテ トンボグジデ
気持ち悪くて 私 中まで 入らないで こうやって 入り口で

ナガメッタ ホーシタラ オゴラッチャンダ ウン イマ
眺めていた そうしたら 怒られたんだ うん 今

オゴラッチャモンナー ナンテ ×××ワガンネカ ワガッガイ ホシテ イダラバ
怒られたものなあ なんて ×××分からないか 分かるかい そうして いたら

ユーグンキデシタ ナンテ イヤッチヨ ホーシテ バンカダ コンド
友軍機でした なんて 言われてよ そうして 夕方 今度

クラグナッチマッテガラ バンエズトーセンサ モドッテ ノッタ フネヒギサ
暗くなってしまってから 磐越東線に 戻ってきて 乗った 船引に

オリダラ マックラダ バスナンカ ネーダ ホーデ フネヒギガラ
降りたら 真っ暗だ バスなんて ないんだ それで 船引から

ミヤコジマデ アルツタンダヨ イヤー ホノドギ ハナダデサ キズネニ
都路まで 歩いたんだよ いやあ そのとき 花立で 狐に

イッキヤッテヨ ソノドギ
出会ってよ そのとき

(白瀬希, 人見はるか)

福島県被災地方言自由談話

— 田村市都路町 —

[収録場所] 田村市都路地区公民館

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性)

[調査者] 武田拓, 白瀬希, 渡辺拓馬

001B:ンダナイ コーユー アレデ ホシテ イマ ハー シンサイガラ コッチ
そうだね こういう あれで そして 今は もう 震災から こっち

ミンナ ワガレワガレニ ナッチャッタガラネ ホントニ
みんな 離れ離れに なってしまったからね 本当に

—:そうですね。避難してそのままその土地に残ってみたいな…。

002A:ソー ソーナンデス
そう そうなんです

003B:ンダネ ハ
そうだね もう

004A:インノワ ネンパイ ワタシタチド オナジクライノ
[都路に]いるのは 年配 私たちと 同じくらいの

005B:トシヨリタケダ ロージンタゲ
年寄りだけだ 老人だけ

006A:ワガイ シタジ ヨグヨグ イナイモンネ
若い 人たちは ほとんど いないもんね

007B:ワガイ ヒトモネ シゴドノ アルヒトワ イッケドモ ダガ カギラレデルワネ
若い 人もね 仕事がある人は いるけれども だか[ら] 限られているね

ノーキョー ユービンキョグ ヤグバ ウジノホーニ イマ ヨーケージョ
農協 郵便局 役場 うちのほうに 今 養鶏所[が]

アッカラネ タスケラッチッケドナイ
あるからね 助けられているけどね

アドワ マダアッカ ジギョーショ
あとは まだあるか 事業所

008A:ジギョーショワ

事業所は

009B:イロイロナイ チッチャイ コジンンジギョーショワ アッケド ホーユー
いろいろね 小さい 個人事業所は あるけど そういう

ツトメデルナイ ショグバノ アルヒトワ イラレッケドモ
勤めているね 職場の ある人は [都路に]いられるけれども

ソンドナガッタラ ハーナイ ミンナ ヒナンシテッタ ドゴニハ
そうでなかったら もうね みんな 避難していった ところにもう

シゴド ミツケデナイ カエッテ コネーガラ
仕事 見つけてね 帰って こないから

一:どうしてもそういうのありますもんね。

010A:ソーナンデス ダガラ ジブンノ ダイ ダゲダナー ナンテ ユッテ
そうなんです だから 自分の 代 だけだなー なんて 言って

ミンナ ソノハナシデス
みんな その話です

011B:ナイ ナンネン ミヤコジワ ツズグガナンテ イマス
ね 何年 都路は 続かなんて [言って]います

012A:ウン ホントニ ミルミル ヘッテグンダモンナイ
うん 本当に みるみる [人が]減っていくんだもんね

013B:ホッテ コンドノ シンサイデワ ダイブ ハー フネヒキ ミハル コーリヤマ アダリサ
それで 今度の 震災では だいぶ もう 船引 三春 郡山 あたりに

ウジ タッチャッタガラナイ ワガイヒトワ モー カエッテ コネーバイ
家[が] 建ってしまったからね 若い人は もう 帰って こないでしょう

ンダガラ タイヘンダド オモイマスヨ
だから 大変だと 思いますよ

一:また福島市は福島市でやっぱ県外に行ってしまった人も多いですし…。

014A:ソーナンダッテネ ウン
そうなんだってね うん

一:どうしても…。

015A:ウジノホーワ
うちのほうは

016B:ナミエノ ウジラノ イドゴアダリワ ミンナ フグシマ アダリ
浪江の 私たちの いとこあたりは みんな 福島[の] あたりや

ニホンマズ アダリサ イッテナイ ウジ タデルッテ イルモンナイ
二本松[の] あたりに 行ってね 家[を] 建てるって [言って]いるもんね

017A:サビシゲド ショーガナイ ナイ イナインダモノ
寂しいけど しょうがない ね いないんだもの

018B:シゴトノ アルヒトワ カエッテコレルゲドナイ
仕事が ある人は 帰ってこられるけどね

ドーニモ ナンネモンナイ
どうにも ならないもんね

019A:ウジ ツグッテガラワ カエッテコナイ
家[を] 作ってしまったのは 帰ってこない

一:また行った先で職見つけちゃうともう…。

020A:ソーナンデス コッチニワ キタッテ ショグガ ナイ

そうなんです こっちには 来ても 職が ない

カワウジニワ アルンダケド イッパイ コンドワ ヒトガ イナイ

川内には あるんだけど いっぱい 今度は 人が いない

スグ トナリ カワウジダガラナイ カワウジニ イグンデス デモ ヤッパリ

すぐ 隣[が] 川内だからね 川内に 行くんです でも やっぱり

ニンズーガ イナクテ カイゴノホーモ ナンニモ モー ハイリタイ ヒトワ

人数が なくて 介護の方も 何も もう [施設に]入りたい 人は

イッパイ インダゲド ヒトガ イナクテ イレラレナイッテ

いっぱい いるんだけど 人が なくて 入れられないって

021B:アー ソーユー アレ アツカイ

ああ そういう あれ あるかい

022A:ソーナンダッテ

そうなんだって

023B:ホッテ アレ カイシャワ タデダンダゲドモ コンド ヒトガ イネッテ

それで あれ 会社は 建てただけけれども 今度は 人が いないって

ユッテンモンナ カワウジワ

言っているもんね 川内は

024A:ソー ヒトガ イナイ ソー

そう 人が いない そう

025B:ドンナテ ウッタッテ カエッテクル ヒトワ カエッテクッケドモ

どんな手[を] 打ったって 帰ってくる 人は 帰ってくるけれども

ヤダツター ヒトワ コネモンネ ホントニ

嫌だっていう 人は 来ないもんね 本当に

026A:カイシャワ ダイブ デキタヨネー カワウジワ
会社は だいぶ できたよね 川内は

027B:デキタヨナイ
できたよね

028A:ウジノホード チガッテ ムラダガラ クニ チョグエーデワ ナイケド
うちのほうと 違って 村だから 国 直営では ないけど

ナンテユーノガナ ンダガラ チガーンダヨネ ナンデモ デキテ
なんていうのかな だから 違うんだよね なんでも できて

ミヤコジドワ チガッテ デキテンダゲド ヒトガ ヤッパリ カエッテ コナイ
都路とは 違って できているんだけど 人が やっぱり 帰って こない

029B:カギラレダ ヒトシカ コネダ アレナー ヒナン カイジョニ ナッタッテ
限られた 人しか 来ないんだ あれなあ 避難 解除に なったって

030A:プールマデ ツグッテネ オンスイプールナンテ
プールまで 作ってね 温水プールなんて

—:プール?

031A:ソー オンセンモ アッケド オンスイプールモ ウジガラ
そう 温泉も あるけど 温水プールも 家から

ジュップンクライデ イグンダゲド ンデモ ドンナコト シタッテ
10分くらいで 行けるんだけど でも どんなこと[を]したって

カエッテコナイヒトワ カエッテコナイ キテル ヒトワ ミンナー トショリノ
帰ってこない人は 帰ってこない 来ている 人は みんな 年寄りの

トショリノツツタッテ ジブンモ トシトッテンダゲド ソーユーヒト
年寄りのっていったって 自分も 年取っているんだけど そういう人

バックリ プールニ キテ コドモダジワ ゴログニンクライ イレバ イーホーダナ
ばかり プールに 来て 子どもたちは 5, 6人くらい いれば いいほうだな

(一噌さつき，三瓶那美)

福島県被災地方言自由談話

— 田村市都路町 —

[収録場所] 田村市都路地区公民館

[話者] A(高年層男性), B(高年層女性)

[調査者] 白岩広行, 土屋弘恵, 設楽なつね

—: 子供のごろは何して遊んでましたか。

001A: コドモノコロワ ホンニ ミズアビッテ ユード カワデ
子供のごろは 本当に 水浴びと いうと 川で

—: 川で遊んだり。

002A: シテダノ プールナンカワ ネガッタガラ トニカグ ミズアソビワ ナズノ バアイワ
していたの プールなんかは なかったから とにかく 水遊びは 夏の 場合は

カワデ フユニ ナット コンドワ タゲデ ソリオ ツグッタリシテ ソリノリドガ
川で 冬に になると 今度は 竹で そりを 作ったりして そり乗りとか

ユギノ ウエ ソリノリドガ アソビワ ホンナニ アソビツツタッテ
雪の 上 そり乗りとか 遊びは そんなに 遊びといたって

—: 雪そんなに降るんですか、都路は。

003A: コゴワ フッターダ
ここは 降ったんだ

—: 昔は…。

004A: フツーワ アレダ サンジュッセンチグレワ ラグラグ フッテダモンナ
普通は あれだ 30cm くらいは 楽に 降っていたもんな

005B: シダナー
そうだなー

一:今はそんなに降らないですよ。

006A:イマモ タマニ イッカイクレワ フンダッケ サンジュッセンチ
今も たまに 1回くらいは 降るんだよ 30cm

007B:シンサイデ カエツテキテガラ ウント フッタドギ アッタヨナー
震災で 帰ってきてから とても 降ったこと[が] あったよね

008A:イッカイ フッタ
1回 降った

009B:トニカグ コノマドガ ヤネガラ オチタ ユギデハー ミエナインダガラ
とにかく この窓が 屋根から 落ちた 雪でもう 見えないんだから

010A:ンダ スゴイドギ アッタ イッカイ
そうだ すごいとき あった 1回

011B:イッカイ アッタヨナー
1回 あったよね

012A:シナンシル メーダガラ ホッテ コーリズイデデ オジネ モンダガラ
避難する 前だから それで 凍りついていて [雪が]落ちない もんだから

オラエノ ヤネナンカ ズーット サガッタダガラ オモクテ
私の家の 屋根なんか ズーッと 下がったんだから 重くて

カヤヤネニ カブセダ ヤズダガラ ソレガ オモクテ グット サガッタノ
茅葺屋根に かぶせた ものだから それが 重くて グット 下がったの

013B:ンダワナー
そうだよなー

014A:コーリデ アノ ミズ フグンダダ サギ アメ フッテデ ソノウエデ ナッタガラ
氷で あの 水 含んだんだ 先[に] 雨[が] 降っていて その上で なったから

ネバッテハ オジネガラ
貼りついてもう 落ちないから

一:危ないですね。重たいでしょう。

015A:オモクテハ コンドワ サガッテ ナオシテ モラッタ
重くてもう 今度は [屋根が]下がって 直して もらった

016B:ホラ トジュー ウジノ アノ ウラミチノ トゴニ スゴイ マツノキガ
ほら 途中 うちの あの 裏道の ところに すごい 松の木が

アッテ ソレガ タオレデ オーユギ フッタドギ シンサイ アドダ
あってそれが 倒れて 大雪[が] 降ったとき 震災[の] あとだ

017A:ンダ シンサイ アドダ
そうだ 震災[の] あとだ

018B:シンサイ アドナイ シンサイニ ナッテガラ
震災[の] あとね 震災が 起きてから

019A:コッチワ アレダ シナンシテル ウジダ
こっちは あれだ 避難している 間だ

020B:ソシテ コンド ホラ デンキガ コナグナッタバイ
そして 今度 ほら 電気が 通らなくなったでしょう

ゴハンワ ヤッパリネー タケナイベシ ホーシテ ミンナシテ ホラ
ご飯は やっぱりね 炊けないし そうして みんなで ほら

ミンナツツタッテ マダ ホンナニ カエッテキテナイガラ トラクターデ
みんなといっても まだ そんなに 帰ってきてないから トラクターで

K チャント Tト ユギハギ ソレガ マルイジニジモ カガッタンダ ソレデ
K ちゃんと Tと 雪かき それが 丸一日も かかったんだ それで

デンキヤサンガ キテ ツケッペド オモッタッテ
電気屋さんが 来て [電気を]つけようと 思ったって

ノボッテコレナイガラ ホラ ヤマミチダガラ イヤイヤ ホント フツカ
上ってこられないから ほら 山道だから いやいや 本当 二日

マルフツカ ミッカ チカグ デンキ コナガッタナイ アレモ ヒドガッタ ウン
丸二日 三日 近く 電気[が] 通らなかったな あれも ひどかった うん

021A:オーユギ フッタガラ
大雪[が] 降ったから

一:せっかく帰ってきたのに…。

022B:ナーイ
ねえ

023A:ヒナン シテガラダナ
避難 していたからな

024B:ウン オーユギデ
うん 大雪で

一:あれですか、周りの家も全部電気来なくなっちゃって。

025B:ソー マワリモ ミンナ デンキ コナクテ ソレデ コッチワ
そう 周りも みんな 電気[が] 通らなくて それで こっちは

ムジューンナッテ フタリデ ハイッタンダゲド ソレモ カダインダ ソノユギモ
夢中になって 二人で [雪を]かいていたんだけど それも 硬いんだ その雪も

026A:ンダ
そうだ

027B:ヨル アノ
夜 あの

028A:コーツタガラナ ビダビダット コー シッケノ モッタ ユギダッタガラ
凍ったからな ビタビタっと こう 湿気を 持った 雪だったから

ソレガ コーツチャッタガラ
それが 凍ってしまったから

029B:ソー アソコノ Kサン ウジノ ブルガ ハイッタンダヨ
そう あそこの Kさん[の] 家の ブルドーザーが 入ったんだよ
ニジコロ ドードードードー オド シテッカラ ガラス アゲデ ミダラ
2時ごろ ドードードードー 音[が] しているから ガラス[を] 開けて 見たら

トニカグ ススメネダツケ イッテワ ナンカイモ ガジガジ ガジガジ
とにかく 進めないんだよ 行っては 何回も ガジガジ ガジガジ

ガジガジッテ
ガジガジって

030A:カダクテ ハゲネガッタンダナ
かたくて [雪を]かけなかったんだな

031B:ホントニ クルマイジダイ アルクタゲナ ヤットゴド ハイデ アブナクテ
本当に 車1台 走れる分だけな やっと [雪を]かいて 危なくて

ヨータシニ ナンテ イゲナガッタ スレジガウ クルマ ホント
用足しに なんて 行けなかった すれ違う 車 本当

シンサイデ カエッテキテガラ ダッテ ホーユーゴド アッタンダモノ
震災で 帰ってきてから だって そういうこと[が] あったんだもの

一:災害は恐ろしいですよ。

032A:オラワ ガッコー ナンネンマデダベ ナンネンニ デンキ デンキ ナガッタガラ ウジ
私は 学校 何年までだろう 何年に 電気 電気[が] なかったから うち

オラ チーセーウジワ コゴマデワ アッタダゲント アソッカラ アッチワ
私[が] 小さいうちは ここまでは あったんだけど あそこから あっちは

デンキ ナガッタガラ ホレ アノ ショーボーショガラ アッチワ デンキ
電気[が] なかったから ほら あの 消防署から あっちは 電気[が]

ナガッタンダ アドガラ シーダ アレワ ナンネンダッタダガ アレ
なかったんだ あとから 引いた あれは 何年だったか あれ

033B:オレラ キタコロワ アツタンダガラ ゴーシノホーワ ナクテ ソシテ
私たちが 来たころは あったんだから 合子のほうは なくて そして

オレラ ヨメニ キテガラ ウジノホーサ トマッ
私たちが 嫁に 来てから うちのほうに ××××××

034A:ハツデン ツグッタンダ アレナ ジガハズデン
発電[を] 作ったんだ あれな 自家発電

(大井沙耶香, 岡田莉奈)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡川内村 —

[収録場所] 川内村1区集会所

[話者] A(高年層男性), B(高年層男性), C(高年層男性)

[調査者] 半沢康, 湯野川早耶, 駒村友紀

001A:ミハルデ トーガグレ イダダナイ セワシテデモ ホンデモ
三春に 10日間くらい いたんだね 世話になって それでも

ナンボ ワガ キョーダイノ ウジサ ヒナンシテデモ キノドグダガラ コンド
いくら 自分の 兄弟の 家に 避難しているといっても 気の毒だから 今度

ミハルガラ ヒコーキデ アノ コーリヤママデ イッテ ソシテ
三春から 飛行機で あの 郡山まで 行って そして

ヒコーキデ トーキョーサ イッタノ トーキョーノ アダジグサ イッテ アノ ムスメガ
飛行機で 東京に 行ったの 東京の 足立区に 行って あの 娘が

イッテダガラ コンド サイキンモ ムスメ キテ イッショケンメ
行っていたから 今度 最近も 娘[が] 来て 一所懸命

オーエンシテ イダゲンニモ ムスメゲノ ウジサ イッテ ヨンジューニジ
応援して いたけれども 娘の 家に 行って 40日

イダダナホ シテ カワウジノ ソンチョー カワウジソンミンガラ アノ
いたんだね そうして 川内の 村長 川内村民から あの

ムラガラワ ヒナンメーレー デネーウジニ オレラワ ヒナン シッチャッタノハ
村からは 避難命令[が] 出ないうちに 私たちは 避難 してしまったんだもう

ジコヒナンデネ
自己避難でね

一:なるほど、なるほど。

002A:ソシテ アノ トーキョーサ ヒコーキデ イッテ ホシテ ヨンジューニチカン
そうして あの 東京に 飛行機で 行って そして 40 日間

ムスメゲデ セワンナッテ ソーシテ コンダ アノ カワウジデ
娘の家で 世話になって そして 今度は あの 川内で

カセズ モーシコミガ アルヨーダガラ トーキョーニ イデ ソノ
仮設[住宅の] 申し込みが あるようだから 東京に いて その

カワウジヤグバサ ソノ アレ カセズジュータグ モーシコンダノ ソーシタラ
川内役場に その あれ 仮設住宅[を] 申し込んだの そしたら

ウンヨグ カリアゲジュータグ ミツケデ モラッタダ ソゴサ ズンガリニ ハイッタガラ
運よく 借り上げ住宅[を] 見つけて もらったんだ そこに そのまま 入ったから

アマリ ソノ セギジュージャ ナンカノ オンケーモ アマリ ネーワイ
あまり その 赤十字や なんかの 恩恵も あまり ないな

一:そうなんですか。

003A:ウン コーリヤマ カセズサ イルヒトヨリ
うん 郡山[の] 仮設に いる人より

一:なるほど。

004A:ホンダゲンチョモ ズイブント コンドワ アノ トーキョーニ イダガラ
そうだけれども ずいぶんと 今度は あの 東京に いたから

トーキョーガラ コンド カエッテキテ ハー ヒナンメーレーモ デダシ ソレカラ
東京から 今度 帰ってきて もう 避難命令も 出たし それから

ダイイッキヤグニ カワウジサハ ヒナンメーレー デダガラ ホデネー カイジナ
一番に 川内にもう 避難命令 出たから そうじゃない 解除な

イッシヨニ キチマッタワイ ダイイッキヤグニ
一緒に 来てしまったよ 一番に

—:そうなんですか。

005A:カゾグ ゼンブデ
家族 全員で

—:そうですか。

006A:ソーシテ コーリヤマワ カリアゲジュータグガラハ カエッテキテ
そして 郡山は 借り上げ住宅からもう 帰ってきて

—:戻ってきて2年ぐらいで解除になったんでしたよね川内は。結構早く解除になったんですよ。

007A:ソー ンダガラ ナニブン イソガシー シナンシテキタノ
そう だから なにぶん せわしない 避難してきたの

—:大変ですよ。

008A:ナゼ ソノ ヒコーキデ イッタガッテ ユード クルマサ ガソリン
なぜ その 飛行機で 行ったのかと いうと 車に ガソリン[が]

ナグナッチマッタダワイ ドゴノ スダンドサ イッテモ ダメ ホーシテ
なくなってしまったんだよ どのの スタンドに 行っても ダメ そして

フグシマクーコーサ クルマオ ブンナゲデ ホーシテ
福島空港に 車を 乗り捨てて そして

—:飛行機は飛んでいたんですね。Bさんはガソリンは大丈夫だったんですか、車で。

009B:オイラワ ソノ バンダイアダミニ イデ ソシテ アノ ナンダ
私は その 磐梯熱海に いて そうして あの なんだ

ジュージコロニ ナット アシタノ アサゴハン チョータズ シナンネ ワゲダ
10時ごろに になると 明日の 朝ごはん[を] 調達 しないといけない わけだ

ソシテ ドゴニモ ネーランダナ オニギリナンテ ユーノワ
そうして どこにも ないんだよな おにぎりなんて いうのは

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡川内村 —

[収録場所] 福島県川内村2区集会所

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 小林初夫, 二階堂千紘, 岡田莉奈, 萩原実佳

—:あの地震がなったあのときには何してらっしゃった…。

001A:ワタシワ マエノシニ メガ ワリーモンダガラ ミナミトーホクノ ビョーインニ
私は 前の日に 目が 悪いものだから 南東北病院に

イッテタンデス アー キノーワナ ビョーインニ イッテキタガラッテナ
行っていたんです あー 昨日は 病院に 行ってきたから

イッショケンメ ハルサギ アレナ アノ ウラノ アタリ クサムシツタリ
一所懸命 春先 あれな あの 裏の あたり 草[を]むしったり

ウドサ ツイシツタリ シテタンダ ソーヤッテ イタラバ ジシン ナッタガラ
ウドに 追肥したり していたんだ そうやって いたら 地震[が] 起きたから

ナシノギダツケガ ナシノギニ コーヤッテ ツカンデ ウワー ハヤグ ヤメバイー
梨の木だったかな 梨の木に こうやって つかまって うわあ 早く 止めばいい

ツッテ ホシテ ウジテ アレ ヘー アルモンダガラ
と言って そうして 家で あれ 塀[が] あるものだから

ヘーガ コーユーフーニ ナッテデ アー タオレッチマ ハヤグ ジシン
塀が こういうふうになっていて ああ 倒れてしまう 早く 地震

ヤンデクレ ヤンデクレッテ
止んでくれ 止んでくれって

002B:タイシタゴドナッテ イズマデ ネーダバツテナ ホシタラ ダンダン
大したことないって いつまでも 寝ていたんだよな そしたら だんだん

ダンダン オッキグナッタガラ ハー ニワ ハギモノ ハイデ ソドサ
だんだん 大きくなったから もう 庭[に] 履物[を] 履いて 外に

デッチャッタワイナ ホシテ ウエギド タツテダラ タツテランニガッタナ
出てしまったよ そして 植木と 立っていたら 立ってられなかったね

シャガンデ ハー ナンテンノ ネッコサ コーフニ ツカマッテ
しゃがんで もう 南天の 根っこに こういうふうにつかまって

003B:ツカマッテダヨネ
つかまっていたよね

004C:ワタシハ ソドニ デデ ソシテ アノ キガ コーユニ アッタガラ
私は 外に 出て そして あの 木が こういうふうにあったから

ソゴニ ツカマッテ コーヤッテダ
そこに つかまって こうやっていた

005B:ホノウジ アソゴサ ミンナシテ カダマッタダナ
そのうち あそこに みんなで 集まったんだよね

006A:ミンナシテナ ワタシ ウラサ イダッペシ コッチデ デデキタッペシ
みんなだね 私[は] 裏に いたし こっち[の家]で 出てきたし

ミンナ ソレゾレニ トナリドーシダガラ ミンナ ソノヘン アズバツテ
みんな それぞれに 隣同士だから みんな その辺に 集まって

007C:トナリドーシダガラ コノヒトタジワ ジーチャンワ
隣同士だから この人たちは おじいさんは

008B:A チャン ソシタツケカ オレゲノ グシ オチチャッター ナンテ ホントニ
A ちゃん[が] そうしたら 私の家の 棟 落ちてしまった なんて 本当に

アノ オッキーウジ グシ ネーダモノ
あの 大きい家[の] 棟[が] ないんだもの

009C:ジーチャンワ コゴニ ツカマッテ コダズニ ツカマッテ
おじいさんは ここに つかまって こたつに つかまって

ホシテ デデキラッシュェッテ ユッタッテ カンボレッテ コーヤッテ インダ
そして 出てきてくださいって 言っても [こたつを]かぶれって こうやって いるんだ

一:こたつにつかまっていたわけですね。

010C:ツカマッテ ソシタツケ ヤッパリ サイショ ドント ウエニ
つかまって そうしたら やっぱり 最初は ドンと 上に

アガッタンダッテナ ソレガラ コー ユレダガラ ンダガラ ウシロニ テレビ
上がったんだってね それから こう 揺れたから だから 後ろに テレビ[が]

アッタノヨ オッキ テレビ ソイズ トント オチテ ジーチャンノ コゴサ
あったの 大きい テレビ それ[が] トンと 落ちて おじいさんの ここに

コレ オジレバ ウシロニ オジレバ タイヘンダッタゲド ホノマンマ ポツント
これ[が] 落ちれば 後ろに 落ちれば 大変だったけれど そのまま ポツント

スイジバニ オイダ テレビモ ソノママ ポント オチテ コノママ
台所に おいていた テレビも そのまま ポンと 落ちて このまま

一:倒れたんじゃなくて落ちたわけですね。

011C:タオンネデ ソノママ オチタノ ンダガラ ポント ウエ イッカイ アガッタンダナ
倒れないで そのまま 落ちたの だから ポンと 上に 1回 上がったんだね

ソレガラ コーナッタガラ
それから こうなったから

012A:サッシノ カギワ ミンナ アイデダモンナ アンドギワ
引き戸の 鍵は 全部 開いていたもんね あのときは

013C:デモ ショッキダナワ アレダガラ カンノンビラギ ゼンブ

でも 食器棚は あれだから 観音開き 全部

014B:アー オネゲモダ イヤ イーショッキ ミンナ オチチャッタワヨ
ああ 私の家もだ いや いい食器 全部 落ちてしまったよ
イヤ ミンナ ハー バラバラ
いや 全部 もう ばらばら

一:だいぶ長く揺れ続けていましたよね。

015B:ツズイダー
続いた

016C:シバラグネ
しばらくね

017A:ナニカ モノニ ヤッパリ ツカマリ タヨリタイツテ ユーノガナイ
何か ものに やっぱり つかまって 頼りたいって いうのがね

コー アッタモンネ
こう あったもんね

018A:フロワ モー エントズワ ネーシ セギユタキデ ハイナンネナイ
風呂は もう 煙突は ないし 石油で焚いて 入らなければならないな

キョワード オモツテ フロバ アゲダツケガ タイルガハ ミンナ
今日はと 思って 風呂場[の戸を] 開けると タイルがもう 全部

オチチャッテナ フロドゴデ ネガッタナ アントキハ アラー フロ
落ちてしまってね 風呂どころでは なかったね あのときは あら 風呂[は]

コーユニ ナツチャタンダ
こういうふうになっちゃったんだ

019C:ウジワ グシモ ナンニモ オジナガッタンダ カーラワ カワラモ オジナガッタ
うちは 棟も 何も 落ちなかったの 瓦 瓦も 落ちなかった

020A:ソンデ ソーコノ グシワ オジダナ
そして 倉庫の 棟は 落ちたね

021B:ワタシラ イカッタノ ウシロニ イタカラナ マエニ イタラ タイヘンダッタ
私たちが[は] よかったの 後ろに いたからね 前に いたら 大変だった

マエニ ミンナ コー
前に 全部 こう

022A:ミンナ オチタモンナ
全部 落ちたものね

023B:カワラ オジチャッタノニ ウシロニ イタカラ
瓦[が] 落ちてしまったけど 後ろに いたから

024A:ホンデ ナシテ Kチャンワ コー ア コゴモ オチタノナ
それで どうして Kちゃんは こう あ ここも 落ちたのね

025B:ミンナ ホドント マエダナ コッチガラ イッタドゴ
全部 ほとんど 前だね こっちから 行ったところ

026C:ホシテ アノ ソレガラ ソノ アシタカ アノ ミンナ コゴニ シナンシタノネ
そして あの それから その 次の日か あの みんな ここに 避難したのね

トミオガノ ヒトガ ゼンブ コゴニ キテ
富岡の 人が みんな ここに 来て

一:この場所に？

027C:ウン ドゴノ シューカイジョモ イッパイデ ガッコモ ミンナ
うん どの 集会所も いっぱいで 学校も 全部

ソシテ コゴワ ヒヤグニングレ ヒヤグニンデワ キカナガッタナ
そして ここは 100人くらい 100人では おさまらなかったな

(設楽なつね, 永島花菜, 萩原実佳)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡川内村 —

[収録場所] 川内村2区集会所

[話者] A(高年層男性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 小林初夫, 二階堂千紘, 仲山みずほ, 三瓶那美

001A:ダガラ アノ シンサイデ ジシンデ ユスグレダワナ
だから あの 震災で 地震で 揺れたんだよな

マー ジマンシル ワゲデワ ナイゲントナ オレ ツグッタ ウジワ
まあ 自慢する わけでは ないんだけどな 私[が] 作った 家は[崩れなかった]

ミンナ オガネ モラッタ ワゲダ クズレデ オレノ ウジワ クズレネーダ
みんな お金 もらった わけだ [家が]崩れて 私の 家は 崩れないんだ

ホガノ シト オレ ホガノ ウジ ツグッタノワ カネ モラーレンダゲント
ほかの人 私[が] ほかの家 作ったのは 金 もらえないんだけど

ジブンノ ウジワ ボッコンニ カネ イッセンモ モラーンニ
自分の 家は 壊れない 金 一銭も もらえない

002C:ダッテ ソゴサ ウジ タデダドギ モ サンジューゴログネンガ
だって そこに 家 建てたとき もう 35, 6年か

ダイクサンダヨ ゼンゼン ビクトモ シネーヨ
大工さんだよ 全然 びくとも しないよ

003A:ダガラ ナンデ ソノ カネ モラーレッカド ユーゴドワ コーユー カベ アルワナ
だから どうしてその 金 もらえるかと いうと こういう 壁[が] あるでしょ

タイガーボード ハッテ ソノウエサ カベ ヌッテ アド クロス ヌル
タイガーボード 貼って その上に 壁[を] 塗って あと クロス[を] 塗る

ソレガ タイガーボットッテ アレー セッコー カダメダ モノダガラ
それが タイガーボートって あれ 石膏[を] 固めた ものだから

ソレガ ユスグレット コノ カドガ コワレッチマーダナ ユスグレット カドガ
それが 揺れると この 角が 壊れてしまうんだな 揺れると 角が

ンダガラ ソレ コゴ ナンボナンボッテ カネ デル オレ ジブンノ ウジワ
だから ここ いくらいくらって 金[が] 出る 私[は] 自分の 家は

ベニヤデ ツグッタガラ キチット コノ ミガンバゴド オナシデ ナンボ
ベニヤで 作ったから しっかりと この ミカン箱と 同じで いくら

コーヤッテモ ユスグレネー シビモ ハインナゲリヤ ナンニモネー ナンデ
こんなふうにしても 揺れない ヒビも 入らなければ 何にもない どうして

ジブンノ ウジワ ゼニ モラワンニノガナ ホガノ ウジワ ゼニ モラーレンノニ
自分の 家は お金 もらわれないのかな ほかの 家は お金 もらえるのに

004C:ダッテ オレゲダッテ ゼンゼン アレダヨ Kサン ツグッテ モラッタ ウジダゲントモ
だって 私の家だって 全然 あれだよ Kさん[に] 作って もらった 家だけれど

ゴジュークライントギダドナ ゴジュー ウジ タデデ モラッタノ
50歳くらいのときだそうだね 50歳 家 建てて もらったの

005A:マー ジシンノ ドギニワ ソーユーゴドモ アッタ
まあ 地震の ときには そういうことも あった

006C:ホントニ ウジワ カワラ イジマイモ オジナガッタノヨ
本当に 家は 瓦 1枚も 落ちなかったのよ

007B:ムカシワ アノ コーユー ハイリグジ ゲンカンナ トンボグジツツタノ
昔は あの こういう 入り口 玄関な トンボグジって言ったの

008C:ソーダナ
そうだな

009B:トンボグジ
トンボグジ

010C:ホーゲンダワナ カワウジノナ
方言だな 川内のな

011B:トンボグジ イマワ ゲンカンッテ ユーゲド ムガシワ トンボグジ
トンボグジ 今は 玄関って 言うけど 昔は トンボグジ

一:とんぶぐち。

012A:トンブグジガ トブグジ
トンブグジか トブグジ

一:だんだんと方言が出てまいりましたね。その道路から家までずっと長いところを「ジョーグチ」なんて言いましたか。

013A:カドグジッテユー
門口という

014C:カドグジダナ
門口だな

一:昔はやっぱりお手伝いもいろいろ多かったわけですよ、おうちのお手伝いとか。蚕ばっかりじゃなくてたとえば台所仕事とかお炊事のお手伝いなんかも結構多かったんでしょう。女の人なんかは。

015A:オラ チーサイコロノ ジダイッテ ユーモノワ ワガイ オンナヒトモ オドゴヒトモ
私[が] 小さいころの 時代と いうものは 若い 女の人も 男の人も

ドゴサモ ハダラギニ イグドゴ ネーガラ ミンナ ムラニ イダガラナー
どこへも 働きに 行くところ[が] ないから みんな 村に いたからな

オマズリダ ナンテユード ガンガン ガンガン アレデ ホント
お祭りだ なんていうと がんがん がんがん あれで 本当[賑わっていた]

イマワ ワガイ ヒトガ イネンダガラナ
今は 若い 人が いないのだからな

016C:ワタシワ テツダイッテ イエバ ヤッパリ チョージョダッタシ ウマネ ウジデモ
私は 手伝いと いうと やはり 長女だったので 馬ね 家でも

ウマ イダデショー ニヒギ ンダガラ チューガグ ソズギョーシタラ ソレゴソネ
馬 いたでしょう 2匹 だから 中学校 卒業したら それこそね

コーコーモ ナンニモ アゲデワxxxxxxxxxx
高校も なにも 通わせては[もらえなかった]

クサカリ アサ チチト ハハガ フタリデワ マンニヤーナイデショー ンダガラ ワダシモ
草刈り 朝 父と 母が 二人では 間に合わないでしょう だから 私も

アサ アサ オギット クサカリワ アサ シゴドニ クサカリ ヤッタヨー
朝 朝 起きると 草刈りは 朝 仕事に 草刈り やったよ

017A:ダッテ シゴトニ イグツツッタテ ネーモノ ミンナ コゴニ イダワ
だって 仕事に 行くといったって ないもの みんな ここに いたわ

イッケンノ イエニ ソレゴソ オドゴヒトダッテ オンナダッテ ゴログニンズツ イダガラ
1軒の 家に それこそ 男の人だって 女だって 5, 6人ずつ いたから

—:朝, 草刈りは何時ごろにやったんですか。

018C:ソレガネ ミナサンワ アサ ハヤイデショー ワダシナンカ チューガグ ソズギョー
それがね みなさんは 朝 早いでしょう 私なんか 中学校 卒業

シタクレデ アサ トグニアサ オギレナイ ホーダガラ ホースット ミンナ
したくらいで 朝 特に朝 起きられない ほうだから そうすると みんな

シチジハンコロ シゴドニ デンノナ イマノ オーダギネノ アレノ キチガ デギンノデ
7時半ごろ 仕事に 出るのね 今の 大滝根の 基地が できるので

ナンカ トラックサ ミンナ ソンドギ クサ ショッテクンノ ハズガシクテ
トラックに みんな そのとき 草 背負ってくるの 恥ずかしくて

クサ ショッテ カグレデルゴド アルヨ アンマシ アサ オソクテ シチジハン
草 背負って 隠れていること あったよ あんまり 朝 遅くて 7時半

ハチジコロデショー ソノコロ クサ ショッテ アルッテダラバ ワラレツチャウベ

8時ごろでしょう　そのころ　草　背負って　歩いていたならば　笑われてしまうでしょう

ホーユーゴドガ　アルヨ
そういうことが　あるよ

(元木加奈子，渡辺拓馬)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡川内村 —

[収録場所] 川内村7区集会所

[話者] A(高年層男性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 本多真史, 青塚翼, 一噌さつき, 川田菜優

—:川内は、揺れはどんなもんだったんですか。地震自体の揺れは結構大きかったんですか。

001C:ケッコー オオキカッタナ ヤネノグシ オチタリ ショッキ オチタリシタゲントモ
結構 大きかったな 屋根の棟[が] 落ちたり 食器[が] 落ちたりしたけれども

002B:グシ オチタリシテ ウチデ ステルモノッテ ユーノガ サンカクブグロサ ヒトツツ
棟[が] 落ちたりして 家で 捨てるものって いうのが レジ袋に ひとつ

ショッキガラ オチタリナニカシテ アトワ タショー カワラワ イダンダンダヨナ
食器から[何から] 落ちたりなんかして 後は 多少 瓦は 痛んだんだよな

003C:カワラ ウン B チャンゲデ オジル オレゲデワ グシンドゴノ アレ
瓦 うん Bちゃんの家で 落ちてしまっていた 私の家では 棟のところの あれ

ゼンブ ハガレデ アダラシガッタダゲントモ ユレガ ツヨガッタンダナ
全部 はがれて 新しかったんだけど揺れが 強かったんだな

004B:チカガ コノヘンワ ガンダツツタガラ ソノホドノ タマゲダホドノ ヒガイワ
地下が この辺りは 硬かったから それほどの 驚くほどの 被害は

ナガッタド オモー
なかったと思う

—:なるほど、下が硬いんですね。

005C:タイテー グシ ヤラレダナ コノヘンナー
大抵 棟[が] やられたな この辺な

006B:ウジワ ナンテユノガナ アブクマドー アルワナ アソゴニ ヨメサンノ
私の家は 何ていうのかな あぶくま洞が あるよな あそこに 嫁の

ジッカノホーニ セワシナッテ
実家のほうに 世話になって

007A:オレワ ミンナワ コーリヤマ
私は みんなは 郡山

008B:ウン ビックニ イッテ シトバン トマッタ
うん ビックパレットふくしまに 行って 一晩 泊まった

アノ アスグデ ナンカゲズモ セーカズシテダ シトワ タイヘンダッタヨナイ
あの あそこで 何ヶ月も 生活していた 人は 大変だったよね

サムイダガラハ トデモ サムクテ イランネツツワゲデ ヨメサンノホーニ
寒いからもう とても 寒くて いられないっていうわけで 嫁の[実家の]方に

カエッテ ソシテ ナンネンモ セワシナリマシタ
帰って そして 何年も 世話になりました

009C:ワダシワ チョード ニバンメノ ムスコ コーリヤマニ イダガラ ソゴニ セワシナッタ
私は 丁度 2番目の 息子[が] 郡山に いたから そこに 世話になった

ビックサワ ハイネンチャッタナ ソレガハー アノ ミンナ
ビッグパレットふくしまには 入らないでしまったな それがもう あの みんな

シナンシル マエガラ キテ シナン シナンネガモワガンネガラ ヨーイシトゲ
避難する 前から 来て 避難 しなければならないかもしれないから 用意しておけ

ナンテユッテワ カエッタダ ホンドギ クツツイデゲバ イガッタガ
なんて言うては 帰ったんだ そのとき ついて行けば よかったのだけれど

ハウス アルモンダガラ イゲナクテ ダイジョブダ イラレルウジワ
農業用ハウス[が] あるものだから 行けなくて 大丈夫だ [こっちに]いられるうちは

イッカラ ナンテ ユッテダノ ホーシタラ ミンナ カワウジデ シナンダナンテ
いるから なんて 言っていたの そうしたら 川内村みんなで 避難だなんて

ユッタラ アノ ヤロコサ デンワヨゴシタラ シナン コレガラ シットゴダッテ
言うものだから あの 息子が 電話をかけてきて 避難[を] これから するところだって

ムガエサ キタワゲダガ イレチガイニ ナッチャッテ ホシテ ミハルデ
[息子が]迎えに 来たのだけれど 入れ違いに なってしまって そして 三春で

イッショニ ナッテ ホシテ コーリヤママデ ツレテイッテモラッテ ミハルデ ガソリン
一緒に なって そして 郡山まで 連れて行ってもらって 三春で ガソリン

パンクシチャッタノ ホーシテ ガソリンスタンドサ ナランダ イジバンサギ ナランダノ
なくなってしまったの そして ガソリンスタンドに 並んだ 一番先[に] 並んだの

イマ コーリヤマガラ タンクローリー デダガラ オンチャン ナランデデ マッチデモ
今 郡山から タンクローリー でたから おじちゃん 並んで 待ってでも

イッチッタホーガイーヨ ドゴデモ イレランニガラッテ イッテ ニチカン
入れていったほうがいいよ どこでも 入れられないからって 言われて 2時間

マッチダノ アソゴデ ホーシタラ ウシロ ゴジューダイダガ ログジューダイダガ
待っていたの あそこで そうしたら 後ろ[に] 50台だか 60台だか

ウシロ メーネホドナ クルマ ナランデ ホンジモ イジバンマエサ イダガラ
後ろ 見えないほどね 車[が] 並んで それでも 一番前に [並んで]いたから

マンタンニ イッチヤッカラ ナンテ イヤッチナー ホシテ マンタンニ
満タンに 入れてやるから なんて 言われてね それで 満タンに

イッチモラッテ ムスコド ソゴデ オチアッテ
いれてもらって 息子と そこで 落ち合っ

(赤間千夏, 駒村友紀)

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡川内村 —

[収録場所] 川内村7区集会所

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性), (高年層女性)

[調査者] 本多真史, 人見はるか, 永島花菜, 元木加奈子

001A:ソーダネ ヤッパリネ アノ ガッコーノコロワ ヨク ガッコージダイ ガッコージダイ
そうだね やっぱりね あの 学校のころは よく 学校時代 学校時代

ナンカワ アノ オテダマッテ ユッタノ ナッコッテ ユッタノ
などは あの お手玉って 言ったの ナッコって 言ったの

002C:オテダマ ナンタツケ アレ アド オハジキッテ ユッタノガ ガラスダマノ
お手玉 なんて言ったっけ あれ あと おはじきって 言ったのか ガラス玉の

コーユウ キレイナノ
こういう きれいな

003B:ビーダマ
ビー玉

004C:ビーダマドガネ
ビー玉とかね

005A:ビーダマノ コドワ ババダマッテ
ビー玉の ことは ババダマって

006B:ビーダマ
ビー玉

007A:ビーダマノ ゴドオ ババタマッテ ユッタノ ソーユウ アソビ シタノ ナッコ
ビー玉の ことを ババダマって 言ったの そういう 遊び したの ナッコ

ナンテナー
なんてな

008C:ナッコナー
ナッコな

009A:オテダマ オテダマ アンデショー アレオ ナッコッテ ソーユー アソビトガ ソレガラ
お手玉 お手玉 あるでしょう あれを ナッコって そういう 遊びとか それから

アド イマ ユッタヨーナ アノ ビーダマノ ゴドオ ババダマッテ ババタマ ソレニ
あと 今 言ったような あの ビー玉の ことを ババダマって ババダマ それに

オハジキワ オハジキダナイ ソレ ヤッターリ ソレガラ アド ヤッパリ カグレンボ
おはじきは おはじきだね それ したり それから あと やっぱり かくれんぼ

ヤッターリナ
したりな

010C:ウン オニゴッコ ヤッターリ
うん 鬼ごっこ したり

011B:オンナノ ヒトワ ゴムトビッテ ユーノモ ヤッタヨナ
女の 人は ゴム跳びって いうのも したよな

012A:ゴムトビ ナンカ ヤッタ
ゴム跳び なんか した

013B:コーユウ タガトビノ アレダワナー ハヤグ イエバナ
こういう 高跳びの あれだよな 早く いえばな

014A:アド ナワトビ ヨッターリデ
あと 縄跳び 4人で

015B:ミンナト コゴントゴデ ダンダン サンダンマデワ サワソナイデ トブトカネ ツギ
みんなと ここのところで だんだん 3段までは さわらないで 跳ぶとかね 次

コシトカ ムネトカッテ ダンダン タガグナッテ
腰とか 胸とかって だんだん 高くなって

016C:ナンテ ユッタツケ ウマノリミデノ ヤッペ ナンツーダ アレワ
なんて 言ったっけ 馬乗りみたいの するでしょう なんて言うんだ あれは

017A:アー ンダ ウマノリダ ソンナゴド ヤッテダラ ヨゲーナ アノナ カナラズ
ああ そうだ 馬乗りだ そんなこと していたら よけいな あのな 必ず

コーユー ドゴニ ダレガ コーユニ コーシテ
こういう ところに 誰か こういうふう に こうして

018B:シトリ タッテデ
ひとり 立っていて

019A:コーシテ
こうして

020C:ヒトリ タッテデ
ひとり 立っていて

021A:コーシテ
こうして

022C:コーユーフーニ ハネデキテナ ホンデ ナンニンモ ヤッテンダ コータイ
こういうふう に 走ってきてな それで 何人も しているんだ 交代

コータイニ
交代に

023A:ソーユー アソビ
そういう 遊び

024B:ソレガ イッパイ イッカラ サイショノ ヒト マエサ イガナイド ゴニンモ
それが [子供が]いっぱい いるから 最初の 人 前に 行かないと 5人も

ログニンモ トントン イガナクテ ソシテ オッコッタ ヒトガ コンド ウシロサ イッテ
6人も とんとん 行かなくて そして 落ちた 人が 今度 後ろに 行って

ンマニ ナッテ

馬に なって

025A:ソー ウマン ナッテ

そう 馬に なって

026B:ダガラ オドゴド オンナシ アソビ

だから 男の子と 同じ 遊び

027A:ダガラ イマ ゼンゼン ソーユーノワ ミナイナ ソレニ アド イシケリ ドガナ

だから 今 全然 そういうのは 見ないな それに あと 石けり とかな

アソビ ナンカワ コー

遊び なんかは こう

028C:マル カイデ

丸 描いて

029A:マル カイデ ソゴニ イシオ マルイ ヒラペッタイナ イシオ ミツケテキテ

丸 描いて そこに 石を 丸い 平べったいな 石を 見つけてきて

ソシテ ソレデナ イシケリ ソノナ ケッテナ

そして それでな 石けり そのな 蹴ってな

030B:マルビントカ ソノ マルビン マル カイデナー ロッコ ナナコ ハチコ キューコニ

マルビンとか その マルビン 丸 描いてな 6個 7個 8個 9個に

ナンノガ サイゴ オッキー マルサ ハイッテ

なるのか 最後 大きい 丸に 入って

031C:ンダ サイゴ マルグナ

そうだ 最後 丸くな

032B:アシケンケンデ モドッテキタンダヨネ

片足跳びで 戻ってきたんだよね

033A:ソンナ アソビダッタナ ダイダイ ウジン ナガデワ ヤッパリ オショーガズヤ

そんな 遊びだったな だいたい 家の 中では やっぱり お正月や

ナンカッテ イエバ アノ ヨグ トランプドガ ソーユーノワ ヤッタド
なんかって いえば あの よく トランプとか そういうのは したよ

2016 年度文化庁委託事業報告書

福島県被災地方言の談話資料収集と web 発信

〒960-1296 福島市金谷川 1
福島大学 人間発達文化学類 国語学研究室
Tel/Fax 024-548-8124
e-mail yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

印刷:2017 年 3 月 30 日

発行:2017 年 3 月 30 日
